

# 知り合いに聞いた話

弛緩マン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

知り合いに聞いたたちよつと怖い話を文字に起こしました。海で出会った変わった出来事です。

# 目次

知り合いに聞いた話

1



# 知り合いに聞いた話

これは、知り合いから聞いた話なんですけど

その人は釣りをやる人で、結構熱心に海へ通われてるんです。ご自宅は海から遠いんですが、仕事のない土日朝も4時起きでそれこそ毎週のようにね。

釣りには生きた餌を使う場合とルアーを使う場合があるんですが、生きた餌だと消耗品ですから毎回買わなきゃならないんですよ。これもまあ安くても1日で500円とかは掛かってきてしまうんです。ですから生きた餌なんてものを実際の野生のそれを捕獲して使うなんてこともしてたんですよ、元気な人は。その方も元気な方ですから取る餌は自分で獲ってしまいうんです。

その日は土曜だったそうです。翌日には船に乗って沖合いで大きな魚を狙うつもりだったらしくて、餌はカニのつもりだったとか。カニなんて言ってもお料理で出てくるような大きなものじゃなくて、そうですね、足の親指くらいのカニです。そういうカニは砂地の岩場とかに隠れてるんで友人と居そうなどころを探してたんだそうです。

まあいけないことなんですけど、そういう人たちって結構立入禁止のところとかも

入っていくじゃないですか。怒られないようにこつそりしてららしいんですけど。そこも立入禁止の先の方だったみたいです。

車で2人で探してて、結構よく行くところだったらしいんですけどそこに海から突き出した堤防があつてその周りにちよつと砂地になるところがあつて、丁度波消しブルックが岩場みたいになつてるんでカニとか他のエサになる生き物もとれたんだそうです。

その時は堤防の根っこ……砂が溜まつてて広めの砂場で2人でカニ取りしてたらしいです。そしたら急に

「おじさんたちなにしてるの?」

って声をかけられてんだそうです。子供に。見てみたらどうにも古くさい格好なんだとか。もういかにもな昭和の少年つて感じだったそうです。坊主頭で白シャツと短パンの小僧つて感じです。小学生中学年くらいの。もうその時点でちよつとおかしいとは思つたらしいんです。だって、工業地帯で民家なんか近くにはないですし、車で少し入ったところですから歩いてそこまで入ってくるには大変なのに自転車もない。でもまだ（そんなこともあるか）と思つて

「釣りのエサとつてるんだよ!」

て返したそうです。その少年、そこから付いてきたんだそうです。堤防のそこから離

れて埋め立てられた海岸線の砂地を歩きながらカニを探すのを続けてたんだそうなんです、少年はずっと見える位置に居たんだとか。

それで、ずっと付いてくるんで不気味に思ってたみたいなんです、エサ取りをやり続けてだんだん暗くなってきた。少年が不気味っていったって少年は少年ですから、暗いしこんな人の居ない所に一人置いてくわけにもいかないってことで声をかけたんだそうです。

「おじさんたちもう帰るけど一人で帰れるか？」

そしたら少年は

「うん、わかった」

そういつて歩いて行っただけです。

その知り合いたちも道具を片付けて帰路に着いたんですが途中で気付いて怖くなっただけです。

その少年が歩いて行っただけには海しかないんですよ。

特にオチもないんですが、まあこういう不思議なこともあるんだなって話です。